

平成20年7月17日

## 平成19年中における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

## 1 概要

### (1) 全国の発生状況

平成19年中の山岳遭難は

発生件数 1,484件 (前年対比+67件)

遭難者数 1,808人 (前年対比-45人)

うち死者・行方不明者

259人 (前年対比-19人)

であり、発生件数は、昭和36年以降、過去最高を示した。

このうち、40歳以上の者(以下「中高年」という。)は、

遭難者数 1,439人 (前年対比-68人)

うち、死者・行方不明者

237人 (前年対比-14人)

であった。

過去10年間の山岳遭難発生状況を見ると、年々増加傾向にあり、平成10年と比較すると

発生件数 +407件

遭難者数 +467人

となっており、特に、中高年の遭難者数は416人増加している。

### (2) 都道府県別山岳遭難発生状況

遭難発生件数を都道府県別に見ると

長野県 166件

北海道 126件

富山県 117件

の順であった。

## 2 山岳遭難の特徴と未然防止対策等

### (1) 目的別・態様別

山岳遭難の目的別では、登山(ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む)、山菜・茸取りが多く全体の88.6%を占めている。また、態様別では、道迷い、滑落、転倒が多く全体の66.2%を占めている。

これらの遭難は、わずかな不注意や安易な行動が元で発生していることから、これらの遭難を未然に防ぐため、登山に当たっては、余裕を持った計画をたてるとともに、以下のような点に留意が必要である。

登山計画書の作成、提出

気象条件、装備、食料、体力、体調、登山の経験と山岳の選び方、登山コース、日程等に配慮して安全な登山計画を作成し、提出する。

危険箇所の把握

計画を立てるとき、滑落等の危険箇所を事前によく調べる。

状況の的確な判断

視界不良・体調不良時等は、滑落、道迷い等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに行動を中止するよう努める。

滑落防止

滑りにくい登山靴等の着用、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心がける。

道迷い防止

地図とコンパスを有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛け

る。

(2) 年齢層別

中高年の遭難者は1,439人で全遭難者数の79.6%（特に、55歳以上が多く62.7%）を占めている。中高年の登山では、特に体力的に無理のない計画と十分な事前準備に配慮する必要がある。

(3) 単独登山者

単独登山者の山岳遭難は、死者・行方不明者は減少したものの、遭難者数は増加した。また、単独遭難者の死者・行方不明者は、125人で全単独遭難者の24.6%を占めており、複数(2人以上)登山者における死者・行方不明者の割合である10.4%と比較すると、その割合は約2.4倍となっていることから、単独登山は出来るだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める必要がある。

(4) 遭難件数に占める通信手段

全遭難件数の48.7%が遭難現場から通信手段(携帯電話、無線(アマチュア無線を含む。))を使用し、救助を要請している。

今後も、携帯電話による救助要請が増加することが予想されるが、携帯電話は通話エリア内での万が一の通話手段としては有効であるが、多くの山岳では通話エリアが限られていることから注意が必要である。

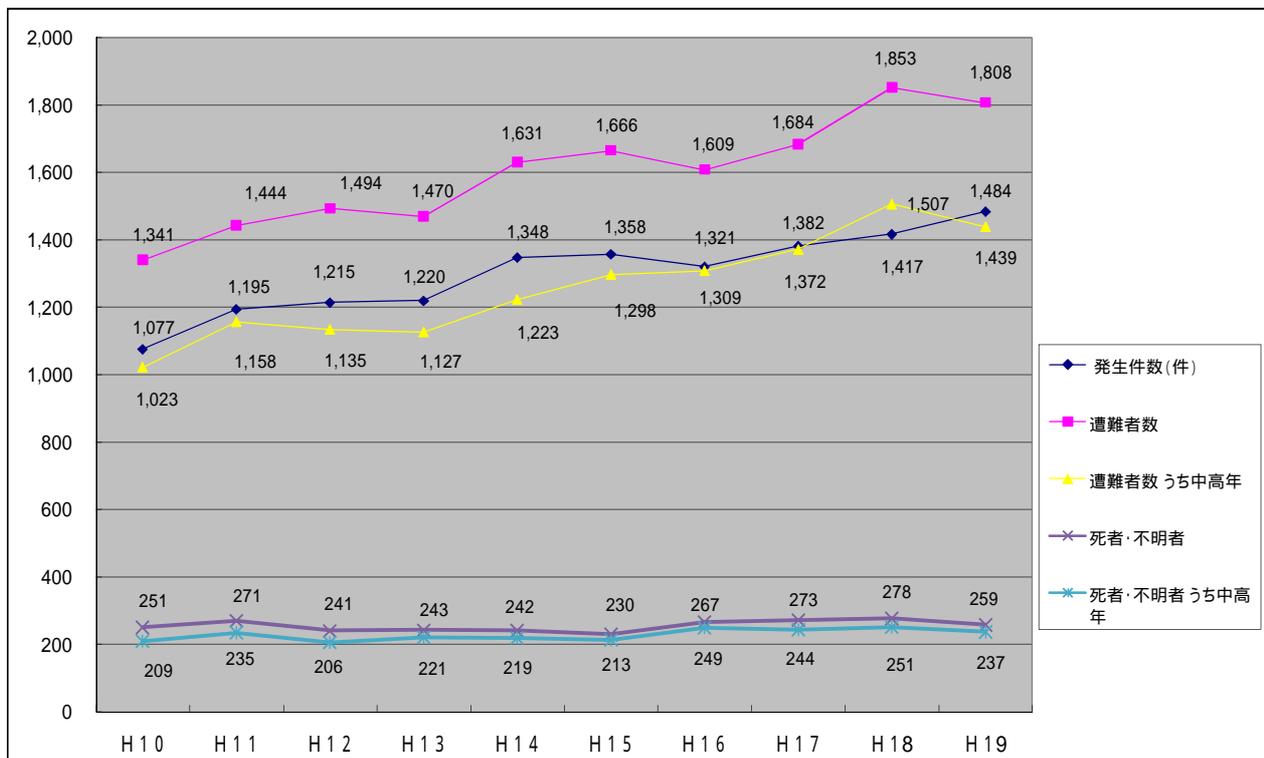
表1 概要

		平成19年		平成18年		増減	
		総数	うち中高年	総数	うち中高年	総数	うち中高年
発生件数(件)		1,484		1,417		+ 67	
遭難者(人)	死者	233	215	251	225	- 18	- 10
	死者・不明者	26	22	27	26	- 1	- 4
	小計	259	237	278	251	- 19	- 14
	負傷者	666	552	648	534	+ 18	+ 18
	無事救出	883	650	927	722	- 44	- 72
	合計	1,808	1,439	1,853	1,507	- 45	- 68

注:中高年とは、40歳以上の者を内数で示す。

表2 過去10年間の山岳遭難発生状況

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
発生件数(件)	1,077	1,195	1,215	1,220	1,348	1,358	1,321	1,382	1,417	1,484
遭難者数	1,341	1,444	1,494	1,470	1,631	1,666	1,609	1,684	1,853	1,808
うち中高年	1,023	1,158	1,135	1,127	1,223	1,298	1,309	1,372	1,507	1,439
死者・不明者	251	271	241	243	242	230	267	273	278	259
うち中高年	209	235	206	221	219	213	249	244	251	237



### 表3 都道府県別山岳遭難発生状況

都道府県	発生件数	遭難者総数	死者	行方不明	負傷者	無事救出
北海道	126	174	23	2	27	122
青森県	57	90	12	1	11	66
岩手県	25	29	6	1	10	12
宮城県	15	23	3	0	4	16
秋田県	64	74	13	2	19	40
山形県	64	71	14	1	28	28
福島県	67	75	13	1	28	33
警視庁	96	107	10	0	49	48
茨城県	4	4	1	0	1	2
栃木県	27	35	5	0	23	7
群馬県	48	55	16	1	21	17
埼玉県	36	39	5	0	17	17
千葉県	7	12	1	0	0	11
神奈川県	55	80	4	0	29	47
新潟県	56	70	8	4	39	19
山梨県	59	71	15	1	33	22
長野県	166	179	28	5	97	49
静岡県	40	45	4	1	19	21
富山県	117	138	13	1	67	57
石川県	13	14	1	0	8	5
福井県	6	6	1	0	3	2
岐阜県	63	78	14	1	27	36
愛知県	2	3	1	0	0	2
三重県	30	48	4	1	10	33
滋賀県	29	37	2	0	19	16
京都府	21	36	3	0	8	25
大阪府	5	5	0	0	4	1
兵庫県	39	41	6	0	21	14
奈良県	13	15	1	2	9	3
和歌山県	2	3	0	0	1	2
鳥取県	14	16	1	0	4	11
島根県	0	0	0	0	0	0
岡山県	1	1	0	0	0	1
広島県	4	8	0	0	0	8
山口県	0	0	0	0	0	0
徳島県	3	6	1	0	0	5
香川県	2	2	0	0	1	1
愛媛県	26	27	0	0	2	25
高知県	3	3	0	1	1	1
福岡県	2	2	0	0	1	1
佐賀県	1	1	0	0	1	0
長崎県	2	2	0	0	0	2
熊本県	8	8	1	0	4	3
大分県	29	35	1	0	8	26
宮崎県	12	14	1	0	2	11
鹿児島県	25	26	1	0	10	15
沖縄県	0	0	0	0	0	0
合計	1,484	1,808	233	26	666	883

表4 目的別山岳遭難者数

	平成19年		平成18年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
登山	登山	996	55.1%	1,031	55.6%	- 35	-3.4%
	ハイキング	126	7.0%	121	6.5%	+ 5	4.1%
	スキー登山	60	3.3%	68	3.7%	- 8	-11.8%
	沢登り	32	1.8%	26	1.4%	+ 6	23.1%
	岩登り	27	1.5%	25	1.3%	+ 2	8.0%
	登山(合計)	1,241	68.6%	1,271	68.6%	- 30	-2.4%
山菜・茸取り	360	19.9%	376	20.3%	- 16	-4.3%	
溪流釣り	24	1.3%	26	1.4%	- 2	-7.7%	
作業	32	1.8%	39	2.1%	- 7	-17.9%	
観光	36	2.0%	34	1.8%	+ 2	5.9%	
写真撮影	15	0.8%	28	1.5%	- 13	-46.4%	
山岳信仰	30	1.7%	26	1.4%	+ 4	15.4%	
自然観賞	3	0.2%	0	0.0%	+ 3		
狩猟	7	0.4%	9	0.5%	- 2	-22.2%	
その他	60	3.3%	44	2.4%	+ 16	36.4%	
合計(人)	1,808		1,853		- 45	-2.4%	

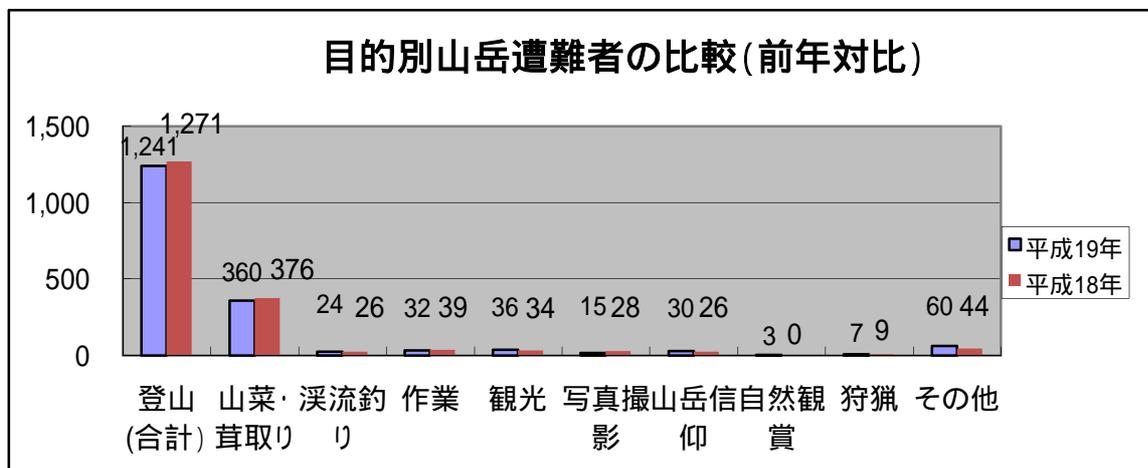
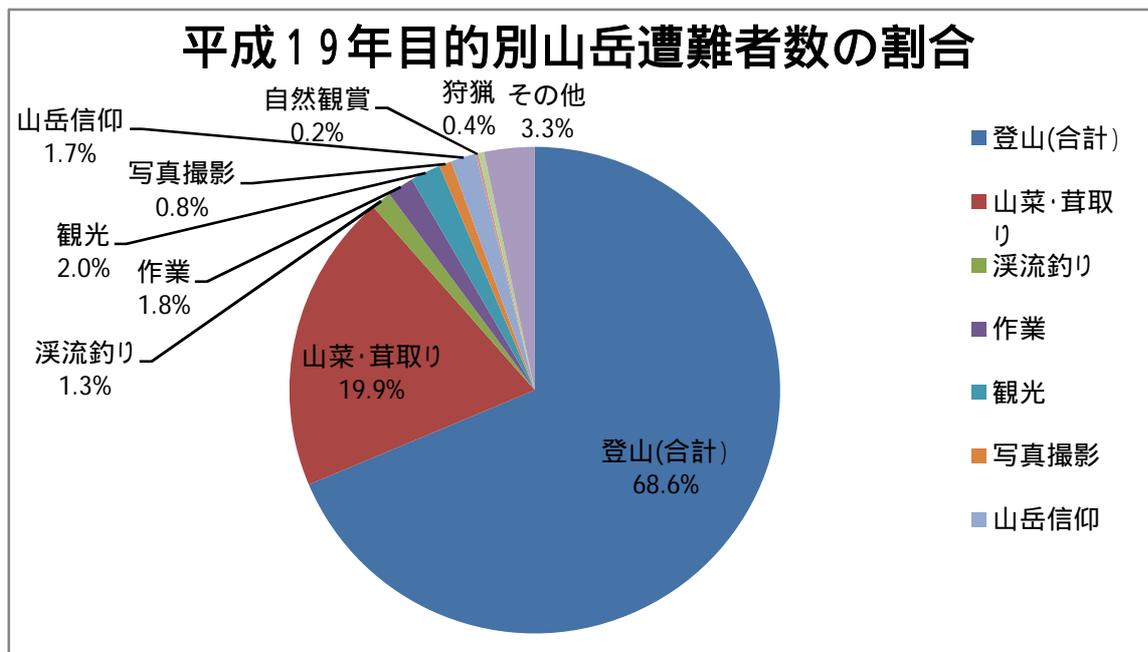


表5 態様別山岳遭難者数

	平成19年		平成18年		増減	
	人員	構成比	人員	構成比	人員	構成比
滑 落	312	17.3%	286	15.4%	+ 26	9.1%
転 倒	257	14.2%	204	11.0%	+ 53	26.0%
転 落	102	5.6%	96	5.2%	+ 6	6.3%
道 迷 い	628	34.7%	714	38.5%	- 86	-12.0%
疲 労	94	5.2%	150	8.1%	- 56	-37.3%
病 気	146	8.1%	157	8.5%	- 11	-7.0%
落 石	17	0.9%	15	0.8%	+ 2	13.3%
雪 崩	73	4.0%	29	1.6%	+ 44	151.7%
落 雷	10	0.6%	3	0.2%	+ 7	233.3%
悪 天 候	28	1.5%	39	2.1%	- 11	-28.2%
有 毒 ガ ス	0	0.0%	0	0.0%	± 0	
鉄 砲 水	6	0.3%	1	0.1%	+ 5	500.0%
野生動物襲撃	33	1.8%	65	3.5%	- 32	-49.2%
不 明	29	1.6%	32	1.7%	- 3	-9.4%
そ の 他	73	4.0%	62	3.3%	+ 11	17.7%
合 計	1,808		1,853		- 45	-2.4%

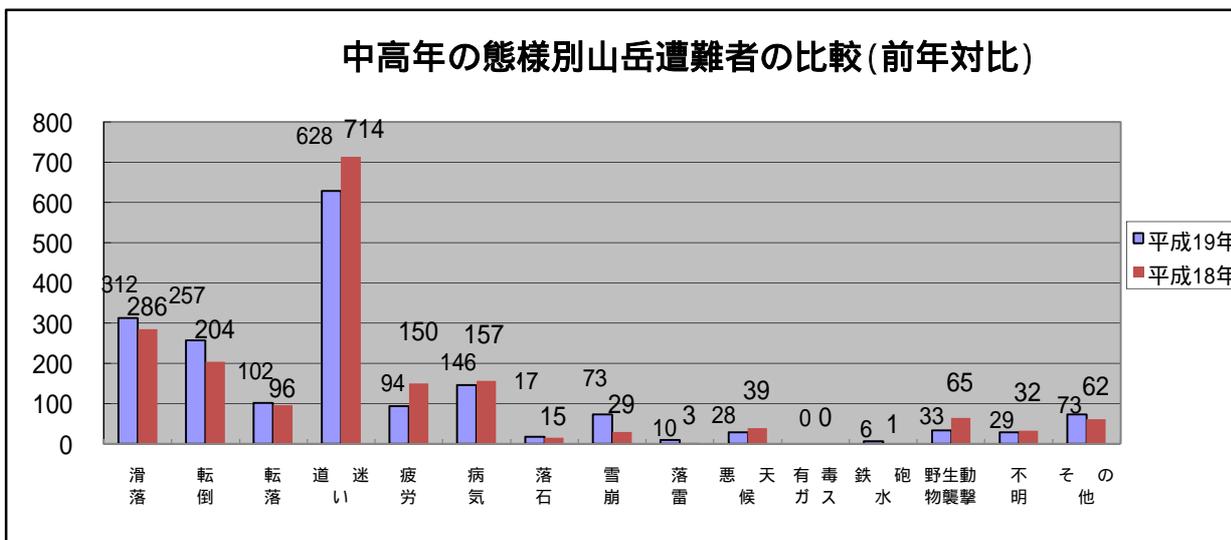
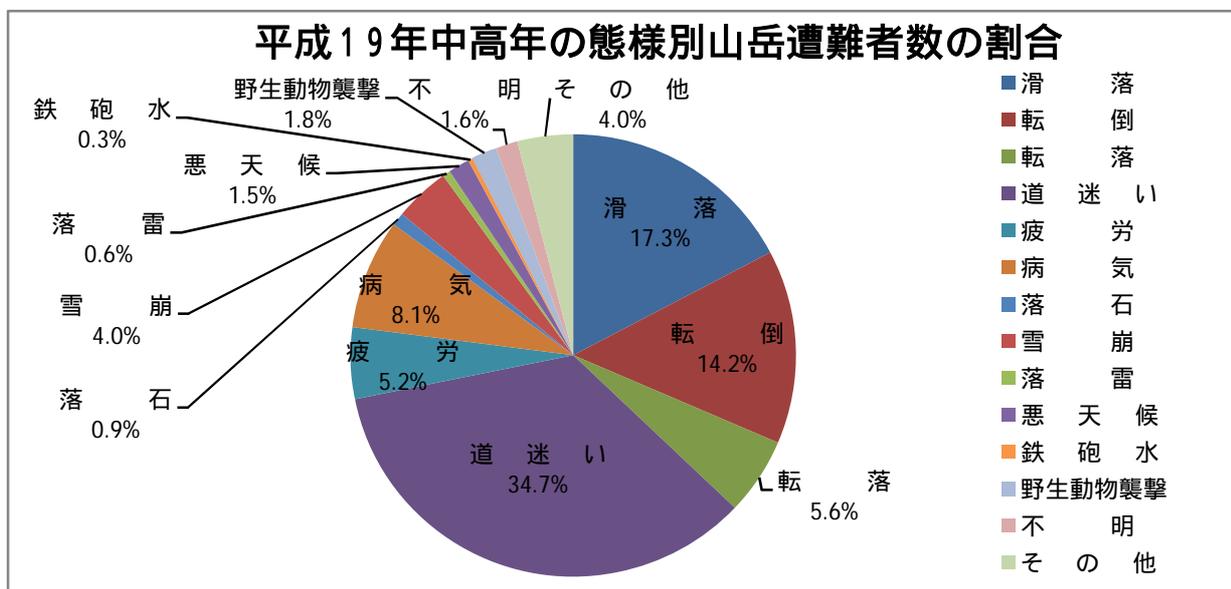


表6 目的別山岳遭難者数(中高年)

	平成19年		平成18年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
登山	登山	769	53.4%	802	55.7%	- 33	-4.1%
	ハイキング	87	6.0%	91	6.3%	- 4	-4.4%
	スキー登山	34	2.4%	35	2.4%	- 1	-2.9%
	沢登り	26	1.8%	14	1.0%	+ 12	85.7%
	岩登り	24	1.7%	18	1.3%	+ 6	33.3%
	登山(合計)	940	65.3%	960	66.7%	- 20	-2.1%
	山菜・茸取り	351	24.4%	372	25.9%	- 21	-5.6%
	溪流釣り	19	1.3%	24	1.7%	- 5	-20.8%
	作業	23	1.6%	33	2.3%	- 10	-30.3%
	観光	29	2.0%	29	2.0%	± 0	0.0%
	写真撮影	13	0.9%	25	1.7%	- 12	-48.0%
	山岳信仰	25	1.7%	23	1.6%	+ 2	8.7%
	自然観賞	3	0.2%	0	0.0%	+ 3	
	狩猟	7	0.5%	8	0.6%	- 1	-12.5%
	その他	29	2.0%	33	2.3%	- 4	-12.1%
	合計(人)	1,439		1,507		- 68	-4.5%

注: 中高年とは、40歳以上の者を示す。

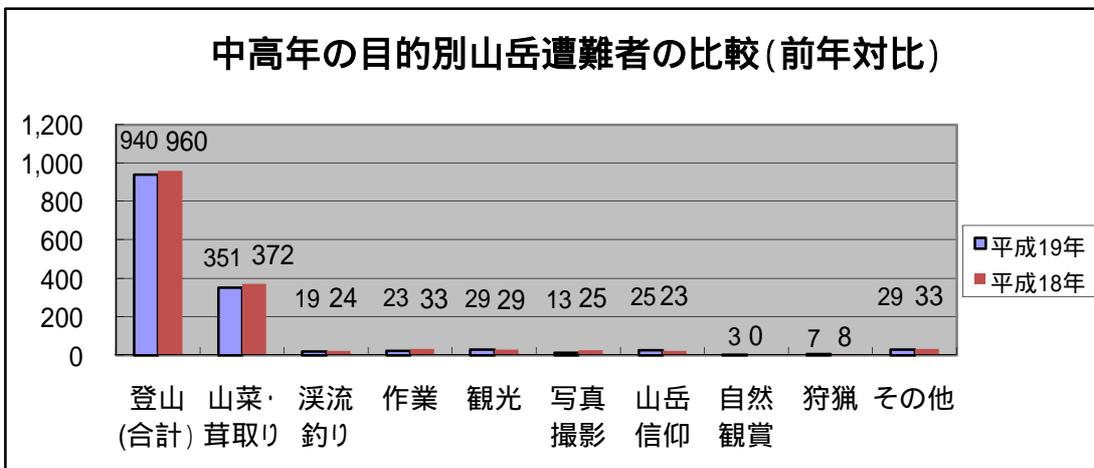
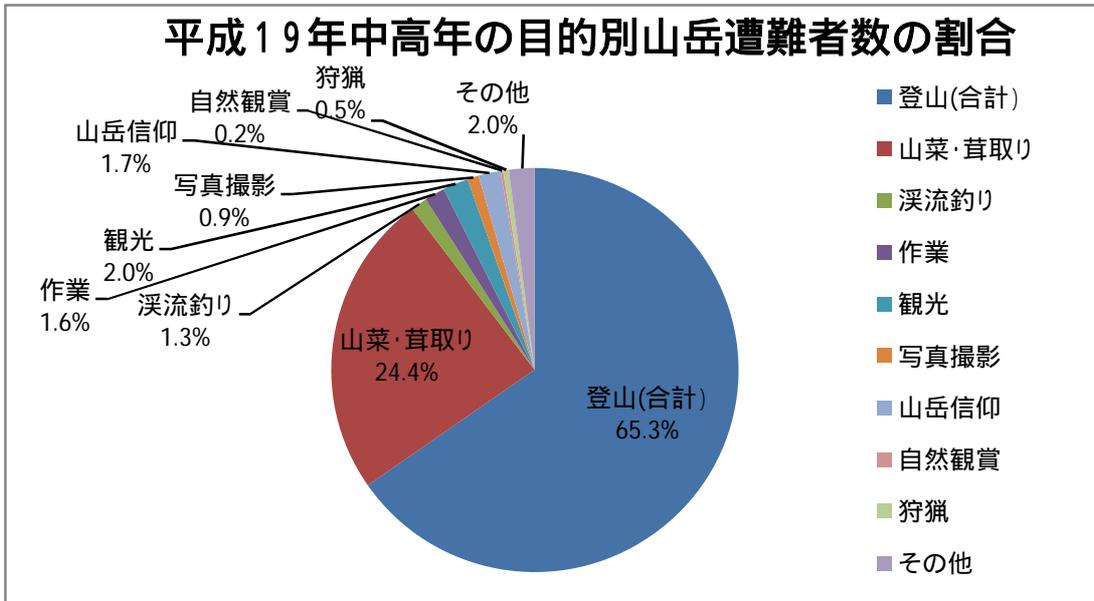


表7 態様別山岳遭難者数(中高年)

	平成19年		平成18年		増減	
	人員	構成比	人員	構成比	人員	構成比
滑 落	264	18.3%	243	16.1%	+ 21	8.6%
転 倒	225	15.6%	173	11.5%	+ 52	30.1%
転 落	84	5.8%	79	5.2%	+ 5	6.3%
道 迷 い	505	35.1%	587	39.0%	- 82	-14.0%
疲 労	76	5.3%	109	7.2%	- 33	-30.3%
病 気	111	7.7%	124	8.2%	- 13	-10.5%
落 石	14	1.0%	11	0.7%	+ 3	27.3%
雪 崩	39	2.7%	14	0.9%	+ 25	178.6%
落 雷	1	0.1%	2	0.1%	- 1	-50.0%
悪 天 候	19	1.3%	31	2.1%	- 12	-38.7%
有 毒 ガ ス	0	0.0%	0	0.0%	± 0	
鉄 砲 水	5	0.3%	1	0.1%	+ 4	400.0%
野生動物襲撃	31	2.2%	53	3.5%	- 22	-41.5%
不 明	24	1.7%	31	2.1%	- 7	-22.6%
そ の 他	41	2.8%	49	3.3%	- 8	-16.3%
合 計	1,439		1,507		- 68	-4.5%

注: 中高年とは、40歳以上の者を示す。

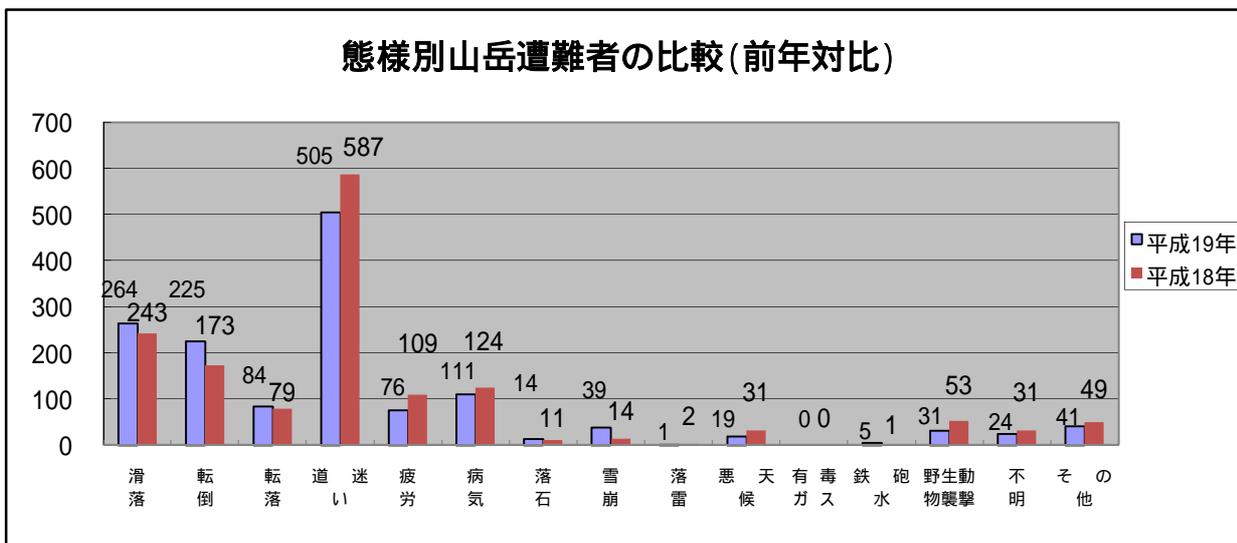
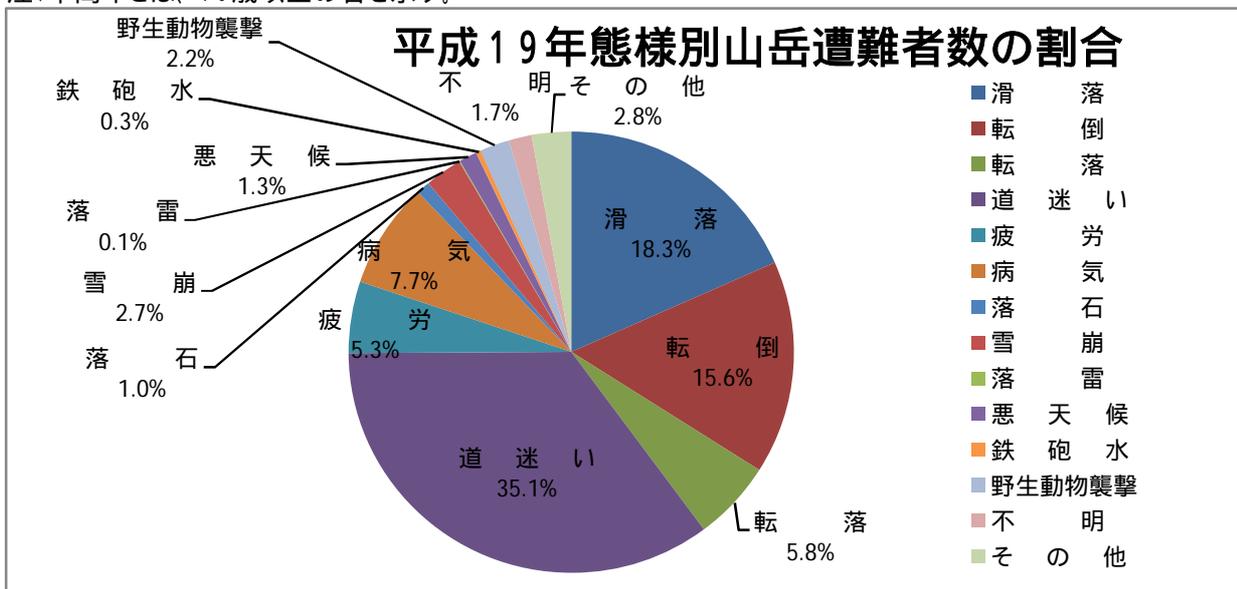


表8 年齢層別山岳遭難者数

	平成19年		平成18年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
15歳未満	66	3.7%	55	3.0%	+ 11	20.0%	
15～19	26	1.4%	23	1.2%	+ 3	13.0%	
20～24	55	3.0%	52	2.8%	+ 3	5.8%	
25～29	49	2.7%	53	2.9%	- 4	-7.5%	
30～34	87	4.8%	73	3.9%	+ 14	19.2%	
35～39	86	4.8%	90	4.9%	- 4	-4.4%	
中高年	40～44	70	3.9%	88	4.7%	- 18	-20.5%
	45～49	97	5.4%	85	4.6%	+ 12	14.1%
	50～54	138	7.6%	166	9.0%	- 28	-16.9%
	55～59	263	14.5%	259	14.0%	+ 4	1.5%
	60～64	251	13.9%	292	15.8%	- 41	-14.0%
	65～69	267	14.8%	243	13.1%	+ 24	9.9%
	70～74	172	9.5%	196	10.6%	- 24	-12.2%
	75～79	119	6.6%	116	6.3%	+ 3	2.6%
	80～84	49	2.7%	38	2.1%	+ 11	28.9%
	85～89	10	0.6%	18	1.0%	- 8	-44.4%
90歳以上	3	0.2%	6	0.3%	- 3	-50.0%	
計(人)	1,808		1,853		- 45	-2.4%	

注：中高年とは、40歳以上の者を示す。

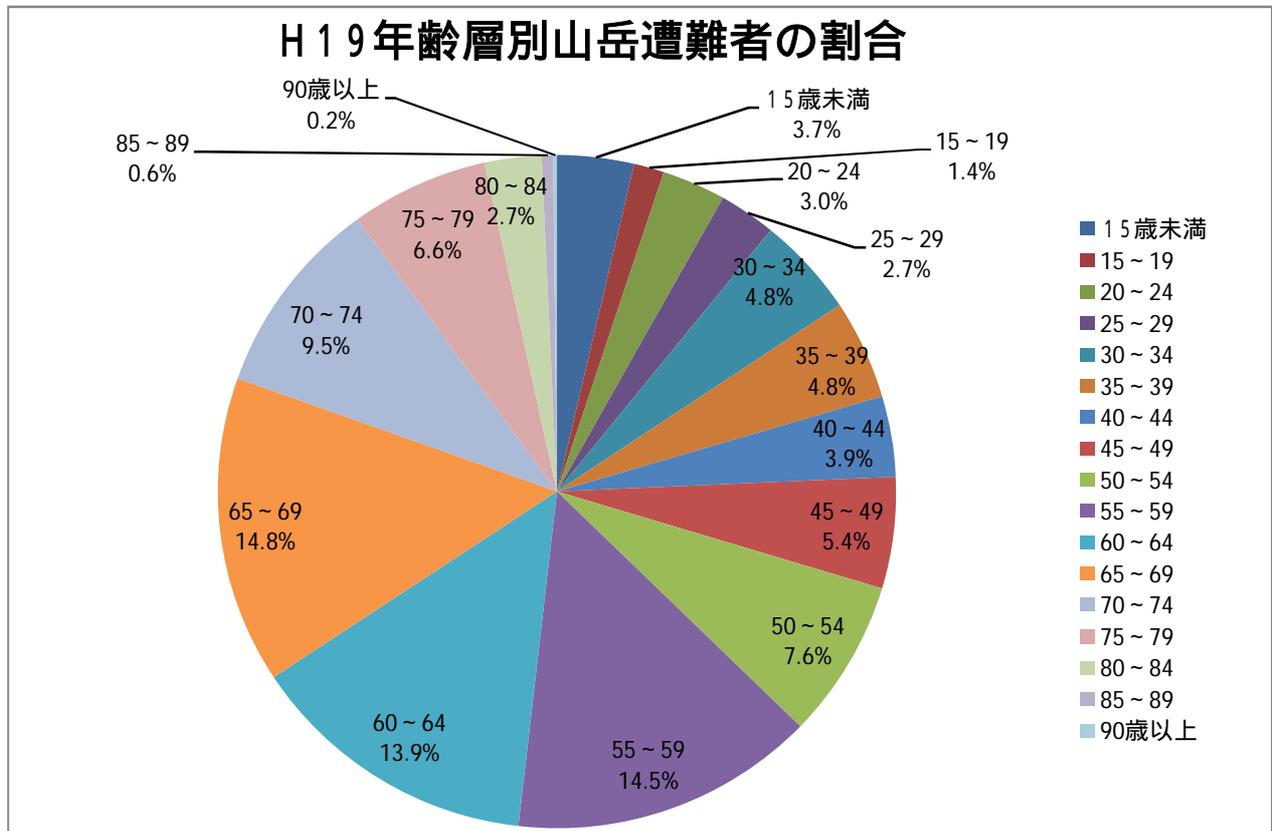
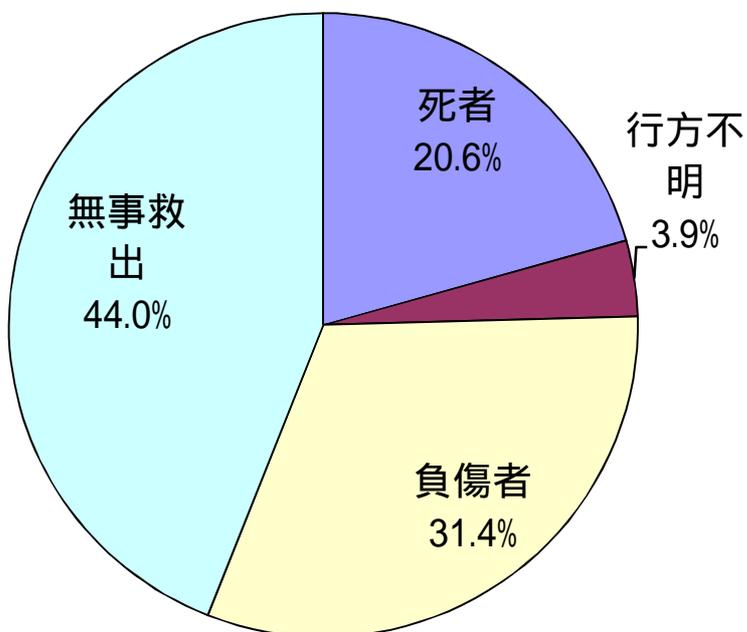


表9 単独登山者の山岳遭難発生状況(人員)

			平成19年		平成18年		増減	
			人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
遭難者	死者・不明者	死者	105	20.6%	107	21.5%	- 2	-1.9%
		行方不明者	20	3.9%	22	4.4%	- 2	-9.1%
		合計	125	24.6%	129	26.0%	- 4	-3.1%
	負傷者		160	31.4%	170	34.2%	- 10	-5.9%
	無事救出		224	44.0%	198	39.8%	+ 26	13.1%
	合計		509		497		+ 12	2.4%

平成19年単独登山者の  
遭難発生割合



【参考】  
平成19年複数登山者の  
遭難発生割合

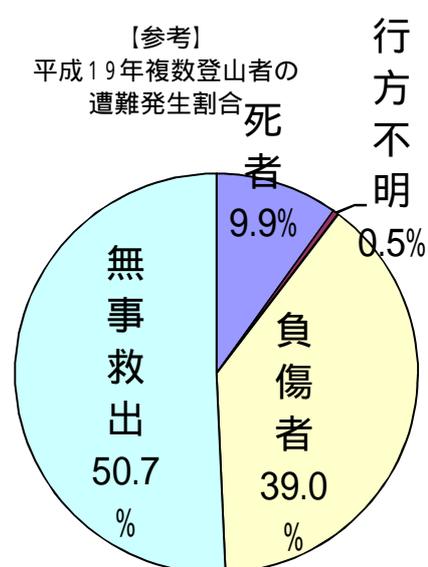
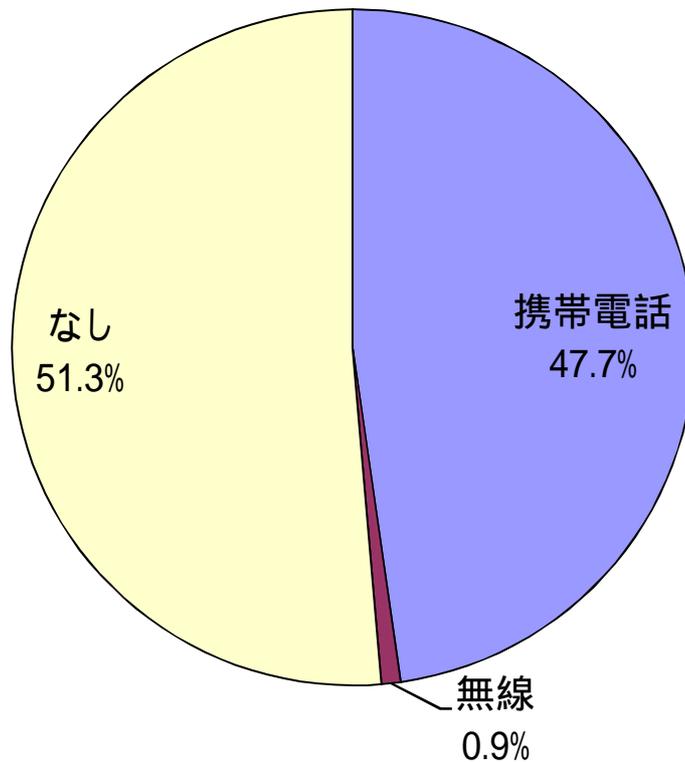


表10 遭難件数に占める通信手段の使用状況

		平成19年		平成18年		増減	
		総数	構成比	総数	構成比	総数	増減率
発生件数(件)		1,484		1,417		+ 67	
使用	携帯電話(件)	708	47.7%	541	38.2%	+ 167	30.9%
	無線(件)	14	0.9%	81	5.7%	- 67	-82.7%
	合計(件)	722	48.7%	622	43.9%	+ 100	16.1%
未使用(件)		762	51.3%	795	56.1%	- 33	-4.2%

### 平成19年通信手段の使用状況



携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。